

# 授業科目 在宅看護学演習

【担当教員名】 宇田 優子、稲垣 千文		対象学年	3	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 在宅看護の役割は地域で療養する人とその家族の健康生活への支援であり、関係職種と連携協力しながら看護独自の機能を果たしていくことである。在宅看護学演習では、日常生活支援と医療処置の必要な療養者と家族への看護について理解し、模擬事例をおして在宅看護の主な方法である家庭訪問について修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>療養者と家族が安心して生活するための環境について説明できる</li> <li>セルフケア能力と家族の条件を考慮した日常生活支援技術を模擬事例で計画作成できる</li> <li>医療処置を必要とする療養者と家族の看護について説明できる</li> <li>在宅酸素機器の取り扱いができる</li> <li>在宅看護過程の特徴を列記できる</li> <li>家庭訪問の方法や留意点について列記できる</li> <li>初回訪問を想定した場面で適切に情報収集できる</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	在宅看護過程、演習の進め方	1	講義、担当：宇田 優子 他		
2	事例展開（1）	1・2・5	演習、担当：宇田 優子 他		
3～7	事例展開（2）～（6）	1・2・5	個人ワーク・グループワーク、担当：宇田 優子 他		
8・9	医療処置（在宅酸素療法・陽圧人工呼吸器）を必要とする療養者と家族への支援	3・4	講義・演習、担当：宇田 優子 他		
10・11	医療処置を必要とする療養者と家族への支援とコミュニケーション技術	1・3	講義・演習、担当：宇田 優子 他		
12・13	技術演習（訪問カバンの取り扱い、血圧測定）と初回訪問場面	6・7	SPによる技術実習、担当：宇田 優子 他		
14・15	事例展開（7） *内容の進め方は変更する場合がある	1・2・5	発表・全体討議、担当：宇田 優子 他		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	在宅看護論	石垣和子、上野まり	南江堂	2014・2,600円＋税・在宅看護学概論の教科書と同じ	
	写真でわかる訪問看護	押川真喜子	インターメディカ	2,500円＋税	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 学習態度 70%程度（演習提出物含む） レポートあるいは筆記試験 30%程度		【履修上の留意点】 外部講師、SPによる演習も行うので真摯な態度で学習に臨むこと			